

◎12月8日(金)～10日(日)開催  
第3008回例会 単独例会  
創立95年記念行事・Ⅷ/2017・忘年ハイク  
「さんふらわあで行く別府・由布岳へ」

(文) 布引支部 C.K

(写真) 同 T.W

以前由布院へ家族でドライブ旅行へ出かけた時、車窓より眺めた由布岳の山容の美しさに心打たれたことがありました。深田久弥が日本百名山に由布岳を入れなかった事を後悔したと言われるその山へ登ることが出来る。又、その往復はサンフラワーフェリーで行ける。友達から船旅の楽しさをよく聞かされていたので夢が実現出来ると、とても楽しみにしていました。出発は12月8日(金)夕方、金曜日に仕事のある人にも行き易く色々と考えられた日程に心より喜びました。さて私も午前の用事を済ませ支度を始めたのですが、天候がとっても不安定で厳しい寒さと雪の情報まで、外は雨が降っていました。着たり脱いだり迷い結局雪だるま状態で出かけました。荷物もリュックと両手に手提げを。

六甲アイランドフェリーターミナルに早々と到着し順調に乗船手続きもされ、部屋割りされた乗船切符、明日の弁当として縦走弁当を受け取り船室にすぐ落ち着きました。大部屋18人部屋に12人なので各々ゆっくりとスペースも確保出来、持参した夕食を部屋の中で車座になり頂きました。少したった頃、他の部屋の人たちも来られ楽しそうに談笑も始まっていましたが私はすぐに眠ってしまいました。船の振動で目が覚めたりしましたがよく休めました。朝は爽快に目覚め洗面所に行くとズラッとトイレと洗面台があり気持ちよく使えました。



7時過ぎ、船も予知通り大分港に着き8時バスに乗

り込みました。由布岳登山口までは1時間程で到着。当たりはうっすらと雪景色。バスを降りて雪の由布岳を見上げました。昨日は大変な吹雪だったらしい。神戸に降っていた雨が、ここでは雪になっていたようで、一日の違いで良い天気にも恵まれ由布岳の山頂までこんなにもくっきりと美しく見られるのはめったになく珍しいとバスの運転手さんが言っておられました。私たちみんなラッキーでした。



さあ、山頂へ向かって出発。あの高い雪山へ本当に登れるのか私は不思議でした。

今日のリーダーは渡田さん。渡田さんから今日の行程の説明があり中央登山口からマタエまで行き東峰の山頂へ登りますとの事でした。

先頭は渡田さんと勝田さん最後尾は石田さんと川崎さんがついて下さるとの事。登る前に足から腰、首と柔軟体操をして出発しました。正面に由布岳を見ながら牧草地を進みました。雪はあまり気にせずゆっくりと歩けました。皆も順調に進んでいたのですが、雪がちょっと気にかかるようになると5人の人がここまでで引きかえしますと言われました。アイゼンをつける人も出てきましたが、石がゴロゴロとありアイゼンで引っかかる恐れもあり怖くて私は付けませんでした、高くなるにつれ足元の泥まじ



りの雪も白いパウダー状態になり日陰になると風も冷たく感じましたが、陽の当たるところではホッとしたり、リーダーが適当に休みを入れてくれたので疲れも感じず、又歩いている時は寒さも感じなかったのですが、休みが長くなるとすぐに冷えて来ていました。山が樹木帯から灌木帯を過ぎ草の斜面になると由布院盆地の見事な景色を見下ろすことができました。そして山頂の方を見上げると、そこにスイスのマッターホルンの北壁かと思えるようなそそり立った壁が見えました。登れば登るほど山が大きくせせり立っていてこの山頂へ本当に登れるの



か不思議でしたが、一歩一歩登っていることに感激していました。マタエにつき東峰の山頂を目指しました。そこまでで登ることを諦める人もおられリュックを置いて行ってもよい、と言われましたが私は担いで登りました。背中にリュックがあるほうが防寒にもケガの防止にもなるとリーダーから言われたからです。そこからはますます岩がゴロゴロとして急な坂になったので段差もおおきくなり大きな石を乗り越えた時には下りはどうして降りようかと心配もしました。足だけではどうしても登れないときは膝を使い手を使い這うように登り手に着いた雪が氷のようにバシバシになりはらえども払えきれず溶けたら冷たいかなと心配もしました。



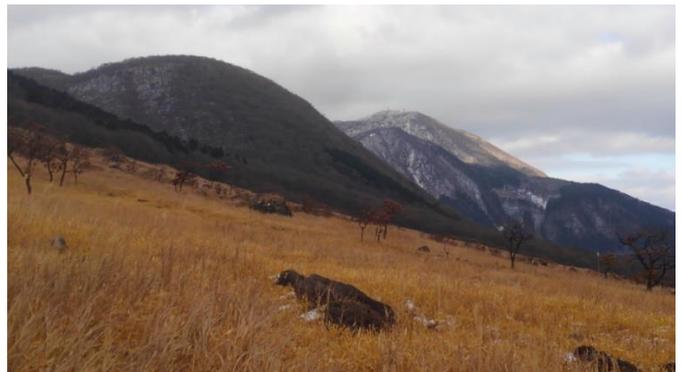
下から見上げた時の美しい由布岳は頂上に近づくとガスっていて何も見えなかったのですが東峰山頂1580mに立てたという感激でもう十分でした。



山頂からマタエまで降りたところで食事となりあまりの寒さで弁当より温かカップメンやパン等食べやすそうでしたが、私は弁当を食べました。とても美味しかったです。全部食べ終わりました。

下山はそれぞれグループで気を付けて下りてくださいとのことでした。石がゴロゴロしていたので雪もありましたが下りもアイゼンを付けずに下りました。下りに自信がないので早々に下山を始めました。上から下を見るとワッ怖いという感じです。ここで石にぶっつけてケガをしてはいけないと十二分に注意を喚起し、何度も何度も自分に言い聞かせました。怖そうで足の出ない時はまずお尻を落とし手で石をつかみ足をついてゆっくりゆっくり下りました。何とか怪我無く下りてこられたのが不思議なくらいでした。

牧草地まで下りて来て後ろを振り向き由布岳を見上げた時、よくあの頂上まで登ってきたものと感激しました。



全員順調にケガもなく下りてこられ、予定より早く



「ゆふいん七色の湯」温泉へ行けました。温泉でゆっくり温まりました。バスでコンビニ、道の駅等に寄っていただき、ある人は買い物、ある人は金鱗湖へと足をのばす人もいました。

大分港へ着き早く乗船しようとして一番前にみんなでズラッと並んで待っていたのですが乗船の手続きがなかなか難しかったようで、一般の方が全部乗られてもまだ待っていると渡田さんが帰って来られ帰りは全員大部屋でなくベッドの部屋に変更になったとの事、よく分かりませんが、内心喜びました。

(色々な経験ができる)

夕食は船内レストランのバイキングに行きました。65歳以上は1550円が1250円になっていてお得感いっぱいでした。食事の内容も充実していて食後もう一度コーヒー、スイーツ、果物と頂きみんな満足そうでした。他のグループの人たちも宴会のように楽しんでおられました。

食事の後、船の大浴場にも行きさっぱりとしてから、2段ベッドの上段に入りグッスリ眠れました。

翌朝5時ごろに目が覚めロビーへ行って談笑をしてから下船の準備をしました。帰宅に急ぐこともないとゆっくと下船口に並びましたが、間が良く帰りのバスには臨時便の一番前に乗り込んで帰れました。

今回の「さんふらわフェリーで行く別府由布岳へ」は色々な経験をさせて頂けて、お天気も最高に良かったって本当に感謝いっぱいでした。

天 候 晴れ

担 当 例会・自然保護委員会

参加者 40名